

海南高等学校 大成校舎

実施日時	令和3年11月10日（水）
参加者	生徒 105名 教職員 10名 計 115名
実施内容	簡易担架作成訓練、消火器操作訓練、防災学習 等

ねらい

- 1 頻発する自然災害に対する知識や心構えについての学習を行う。
- 2 日常生活を通しての減災に対する実践的な態度を育成する。
- 3 災害後に必要とされる行動及び共同作業のスキルを習得させる。
- 4 これらを通して災害に対する「自助」「共助」「公助」について3年間を通して総合的な学習を行う。

主なプログラム

- 1 1・2年：大地震により本校舎でけが人が出たり、一時的に避難所的な役割を果たさなくてはならなくなった場合を想定した訓練を実施する。消防署の協力を得て簡易担架作成訓練、消火器操作について受講する。
地震体験車による地震体験（雨天時・・・きいちゃんの災害避難ゲーム）
- 2 3年：外部講師による講座「L型家具固定講座」を受講し、減災について学ぶ。
きいちゃんの災害避難ゲームを通して実際の災害からの避難をシミュレーションする。

概要 13：20～15：00 各学年に分かれてプログラムを実施

参加者感想文

- ・ 簡易担架はすごく簡単に集められるもので作れて、初めて消火器の使い方も学んだ。もし、災害が起こったときには、率先して行動したいと思った。
- ・ 担架の作り方や消火器の詳しい使い方を理解できた。これから起こりうる大災害などに備えようと思う。
- ・ 火災が発生したらしっかりと焦らずに周りの状況を考えて行動することが大切だと気づいた。
- ・ ゲームをしてみて避難所では様々な対策をしたり、病人やけが人、妊婦さん、障がいがある人に合わせた部屋を作ったりしなければならないのが想像以上に大変だということがわかった。
- ・ 避難してきたから安心というわけではなく、それからのことも考えなければいけないと思った。
- ・ 学校に避難するとなると、いろいろな人が来るから、その人たちのことを考えた上で配慮したいと思った。
- ・ ものが倒れてきて亡くなることが多いから、きちんと家具を固定することが大切だとわかった。

成果と課題

【成果】 今回の活動をとおして、地震をはじめとする災害の恐ろしさを感じ、自分の身は自分で守ること、周囲と協力し合うことなど、災害時に求められる「主体的に行動する」ことを学ぶきっかけとなったと思う。また、例年、消防署員の協力を得て、1年生全員が3月にAEDの使用を含む心肺蘇生方法などを学んでいる。この場においても「今自分がすべきこと」を学び、考えられる生徒が一人でも多くなればと思う。

【課題】 今後は、防災スクールを、地元自治会との連絡をとり、地域との連携をより深めた取り組みとしたい。



起震車体験



きいちゃんの防災避難ゲーム



L字金具固定講座



消火器操作訓練



簡易担架作成訓練